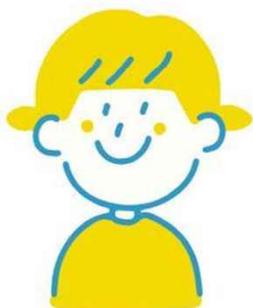


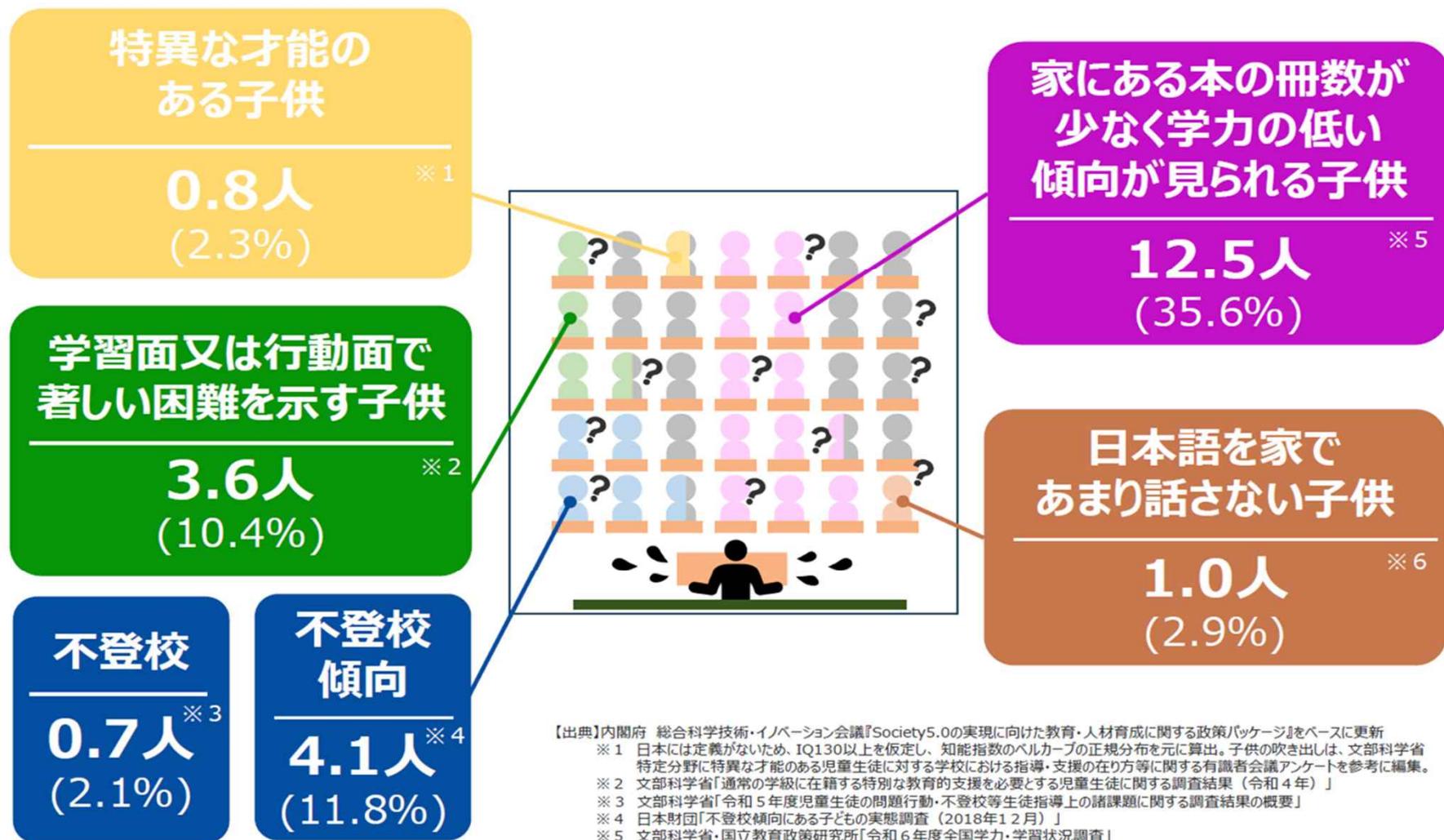
令和7年度 奈良県幼・小・中・義務教育学校

教育課程研究集会

幼保こ小の架け橋プログラムについて



1. なぜ「架け橋期」が重要なのか



【出典】内閣府 総合科学技術・イノベーション会議『Society5.0の実現に向けた教育・人材育成に関する政策パッケージ』をベースに更新
※1 日本には定義がないため、IQ130以上を仮定し、知能指数のベルカーブの正規分布を元に算出。子供の吹き出しは、文部科学省特定分野に特異な才能のある児童生徒に対する学校における指導・支援の在り方等に関する有識者会議アンケートを参考に編集。
※2 文部科学省「通常の学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する調査結果（令和4年）」
※3 文部科学省「令和5年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果の概要」
※4 日本財団「不登校傾向にある子どもの実態調査（2018年12月）」
※5 文部科学省・国立教育政策研究所「令和6年度全国学力・学習状況調査」
※6 文部科学省・国立教育政策研究所「令和3年度全国学力・学習状況調査」

1. なぜ「架け橋期」が重要なのか

令和の
日本型学校教育

個別最適な学習の原理、
それは幼児教育でいう「環境による教育」

幼児教育では、原則教えないで、**環境を整えます**。あとは子どもを見て、子どもだけでやれることと子どもだけではやれないことを見据えます。そして、子どもだけでできないことに関して、子どもだけでできるような後押しをします。

幼児教育あるいは**特別支援教育**というのは、**環境を整えて、一人一人を丁寧に見て、その子が本当に必要なところだけを支える教育**です。要するに、個別最適な学びの原理や目指す姿はそういったところにあると思うのです。

ヒントは
幼児教育にある！



【奈須正裕先生インタビュー】「有能な学び手」としての子どもを信じる【「個別最適な学び」の核心に迫る～ひとりひとりに向き合う教育のこれから～】五月祭教育フォーラム2023 EDUPEDIA 2023.7.25 <https://edupedia.jp/archives/32162>

1. なぜ「架け橋期」が重要なのか

中央教育審議会初等中等教育分科会 幼児教育と小学校教育の架け橋特別委員会 (令和5年2月)

学びや生活の基盤をつくる幼児教育と小学校教育の接続について ～幼保小の協働による架け橋期の教育の充実～

- ・ 幼児期の教育は、**生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要なもの**であり、**全ての子供に等しく機会を与えて育成**していくことが必要。
- ・ **幼児期は遊びを通して小学校以降の学習の基盤となる芽生えを培う時期であり、小学校においてはその芽生えを更に伸ばしていくことが必要**。そのためには、幼児教育と小学校教育を円滑に接続することが重要。
- ・ 一方、幼児教育と小学校教育は、他の学校段階等間の接続に比して様々な違いを有しており、円滑な接続を図ることは容易でないため、**5歳児から小学校1年生の2年間を「架け橋期」と称して焦点を当て、0歳から18歳までの学びの連続性に配慮しつつ、「架け橋期」の教育の充実**を図り、**生涯にわたる学びや生活の基盤をつくる**ことが重要。



架け橋期のカリキュラムの作成及び評価の工夫によるPDCAサイクルの確立

- ・ **幼保小が協働**して、3要領・指針において幼児期の資質・能力が具体的に現れる姿として定められている「**幼児期の終わりまでに育ってほしい姿**」等を**手掛かり**としながら、**架け橋期のカリキュラム***を作成。小学校1年生の修了時期を中心に**共に振り返って、架け橋期の教育目標や日々の教育活動を評価し、幼保小それぞれの教育を充実**

※幼保小が協働して、期待する子供像や育みたい資質・能力、園で展開される活動や小学校の生活科を中心とした各教科等の単元構成等を明確化したもの

2. 幼児教育と小学校教育の違いと接続の視点



幼児教育と小学校教育の特徴とは？

幼児教育と小学校教育の特徴を、教育課程等や教育方法などの面から見てみましょう。



幼児教育 (幼稚園・保育所・認定こども園)

教育の目標

「感じる」「気付く」「考える」「工夫する」「興味をもつ」「関わる」等の経験を重視

教育の方法等

遊びを通した総合的な指導

幼稚園教育要領等

5つの領域からなる「ねらい」と「内容」
(健康・人間関係・環境・言葉・表現)



小学校教育

教育の目標

「～できるようになる」「分かるようになる」等の目標への到達度を重視

教育の方法等

各教科等の目標・内容に沿って選択された教材による授業

小学校学習指導要領

各教科等における目標及び内容

(国語科・社会科・算数科・理科・生活科・音楽科・図画工作科・家庭科・体育科・外国語科・道徳科・外国語活動・総合的な学習の時間・特別活動)

共通 幼児教育と小学校教育

幼児教育

10の姿を念頭に置きながら、小学校以降の生活や学習の基盤となる資質・能力を育成する

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿 (10の姿)

※円滑な接続の手掛かりとして活用

小学校教育

10の姿を踏まえた指導を工夫することにより、幼児期に育まれた資質・能力を踏まえて、教育活動を実施する

教育課程等

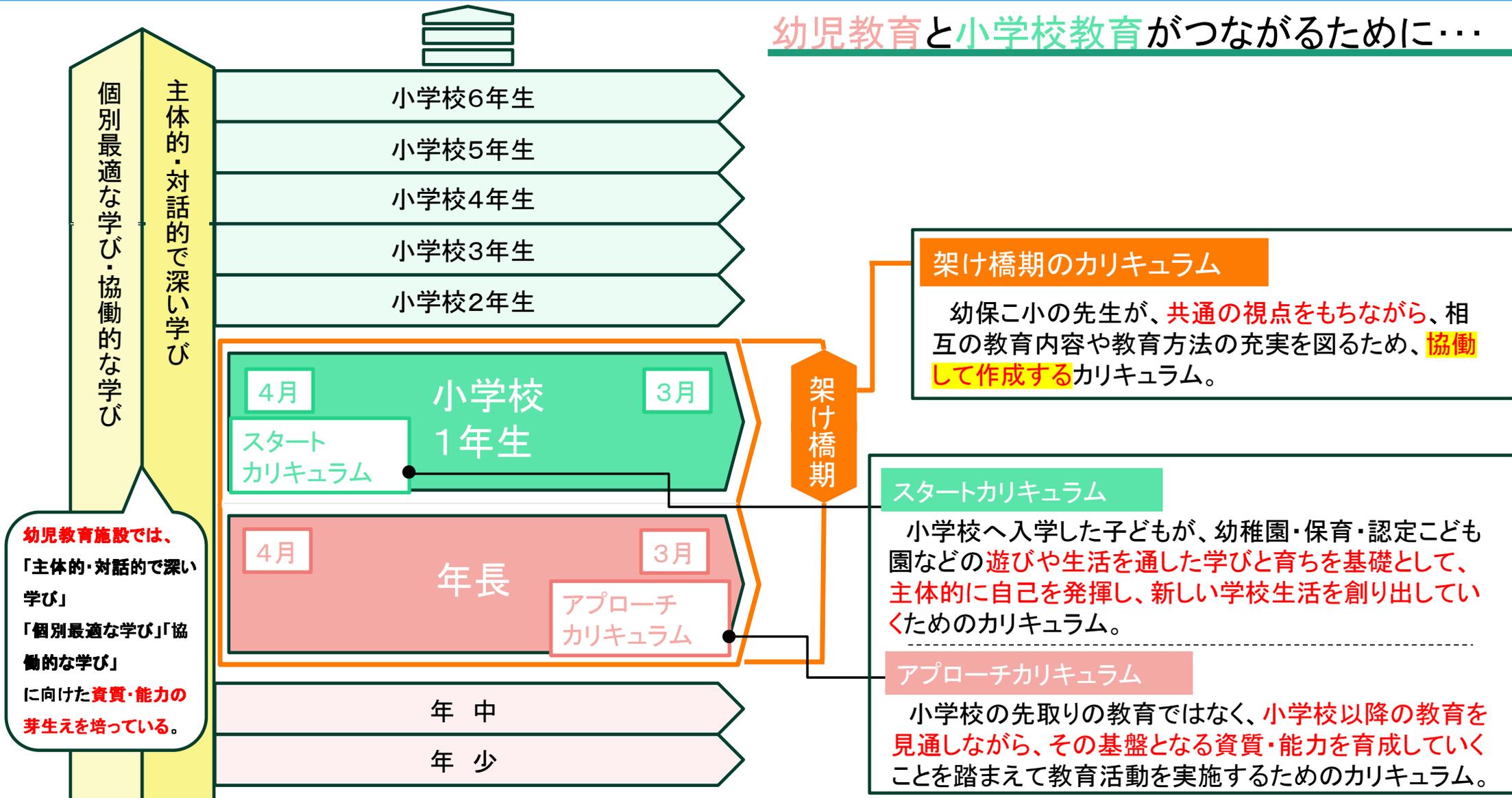
一人一人の資質・能力を育てていくよう教育の内容等を組織的かつ計画的に編成

教育方法

「主体的・対話的で深い学び」の実現

2. 幼児教育と小学校教育の違いと接続の視点

幼児教育と小学校教育がつながるために…



2. 幼児教育と小学校教育の違いと接続の視点

幼児教育と小学校教育がつながる工夫

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を手掛かりにする

幼稚園教育要領（平成29年告示）

5 小学校教育との接続に当たっての留意事項

(1) 幼稚園においては、幼稚園教育が、小学校以降の生活や学習の基盤の育成につながることに配慮し、幼児期にふさわしい生活を通して、創造的な思考や主体的な生活態度などの基礎を培うようにするものとする。

(2) 幼稚園教育において育まれた資質・能力を踏まえ、小学校教育が円滑に行われるよう、小学校の教師との意見交換や合同の研究の機会などを設け、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を共有するなど連携を図り、幼稚園教育と小学校教育との円滑な接続を図るよう努めるものとする。

小学校学習指導要領総則（平成29年告示）

第1章総則 第2の4 学校段階間の接続

(1) 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を踏まえた指導を工夫することにより、幼稚園教育要領等に基づく幼児期の教育を通して育まれた資質・能力を踏まえて教育活動を実施し、児童が主体的に自己を発揮しながら学びに向かうことが可能となるようにすること。

2. 幼児教育と小学校教育の違いと接続の視点

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」①

(1) 健康な心と体

幼稚園生活の中で、充実感をもって自分のやりたいことに向かって心と体を十分に働かせ、見通しをもって行動し、自ら健康で安全な生活をつくり出すようになる。

(2) 自立心

身近な環境に主体的に関わり様々な活動を楽しむ中で、しなければならないことを自覚し、自分の力で行うために考えたり、工夫したりしながら、諦めずにやり遂げることで達成感を味わい、自信をもって行動するようになる。

(3) 協同性

友達と関わる中で、互いの思いや考えなどを共有し、共通の目的の実現に向けて、考えたり、工夫したり、協力したりし、充実感をもってやり遂げるようになる。

(4) 道徳性・規範意識の芽生え

友達と様々な体験を重ねる中で、してよいことや悪いことが分かり、自分の行動を振り返ったり、友達の気持ちに共感したり、相手の立場に立って行動するようになる。また、きまりを守る必要性が分かり、自分の気持ちを調整し、友達と折り合いおを付けながら、きまりをつくったり、守ったりするようになる。

(5) 社会生活とのかかわり

家族を大切にしようとする気持ちをもつとともに、地域の身近な人と触れ合う中で、人との様々な関わり方に気付き、相手の気持ちを考えて関わり、自分が役に立つ喜びを感じ、地域に親しみをもつようになる。また、幼稚園内外の様々な環境に関わる中で、遊びや生活に必要な情報を取り入れ、情報に基づき判断したり、情報を伝え合ったり活用したりするなど、情報を役立てながら活動するようになるとともに、公共の施設を大切に利用するなどして、社会とのつながりなどを意識するようになる。

2. 幼児教育と小学校教育の違いと接続の視点

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」②

(6) 思考力の芽生え

身近な事象に積極的に関わる中で、物の性質や仕組みなどを感じ取ったり、気付いたり、考えたり、予想したり、工夫したりするなど、多様な関わりを楽しむようになる。また、友達の様々な考えに触れる中で、自分と異なる考えがあることに気付き、自ら判断したり、考え直したりするなど、新しい考えを生み出す喜びを味わいながら、自分の考えをよりよいものにするようになる。

(7) 自然との関わり・生命尊重

自然に触れて感動する体験を通して、自然の変化などを感じ取り、好奇心や探究心をもって考え言葉などで表現しながら、身近な事象への関心が高まるとともに、自然への愛情や畏敬の念をもつようになる。また、身近な動植物に心を動かされる中で、生命の不思議さや尊さに気付き、身近な動植物への接し方を考え、命あるものとしていたわり、大切にすることをもちかえりながら関わるようになる。

(8) 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚

遊びや生活の中で、数量や図形、標識や文字などに親しむ体験を重ねたり、標識や文字の役割に気付いたりし、自らの必要感に基づきこれらを活用し、興味や関心、感覚をもつようになる。

(9) 言葉による伝え合い

先生や友達と心を通わせる中で、絵本や物語などに親しみながら、豊かな言葉や表現を身に付け、経験したことや考えたことなどを言葉で伝えたり、相手の話を注意して聞いたりし、言葉による伝え合いを楽しむようになる。

(10) 豊かな感性と表現

心を動かす出来事などに触れ感性を働かせる中で、様々な素材の特徴や表現の仕方などに気付き、感じたことや考えたことを自分で表現したり、友達同士で表現する過程を楽しんだりし、表現する喜びを味わい、意欲をもつようになる。

2. 幼児教育と小学校教育の違いと接続の視点

(参考)「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の捉え方の例

自らの興味や関心に応じて、思うがままに環境と関わる中で、様々な体験を積み重ねていく。その具体的な姿について「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を手掛かりに捉える。

活動中での具体的な幼児の姿を通して、幼保小の先生方が話し合うことが大切である。ここでは、幼児が自分達で考えたお店屋さんごっこ(クレープ屋さんの場合)を例に、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を捉えてみる。

健康な心と体

明日、クレープ屋さんをやりたいと思って、お店に必要な小道具を考えてつくる

自立心

自分達で考えたお店作りが、自分達の実現できた達成感、友達が喜ぶ充実感を味わう

協同性

実現したいお店のイメージを友達と共有し、役割分担したり協力したりしながらごっこ遊びを展開する

道徳性・規範意識の芽生え

やりたいことが友達と異なる時には、折り合いをつけながらきまりをつくる

社会生活との関わり

楽しかった地域のお祭りの経験を友達と共有し、かっこよかったクレープ屋さんを再現してみたいと考える

興味や関心に応じて遊びに没頭する
10の姿が絡み合って現れてくる



楽しい

一緒にやりたい

本物らしくしたい

【今後体験してほしい】

共通の目的の実現に向けて協力したり、時には互いの思いがぶつかりあう中で、相手の立場になって考えたり、互いが納得できる代案を考えたりしてほしい。

【過去の体験】

絵をかいた時に、カラフルに色を塗って楽しんでいたので、また、カラフルにしたいと思ったのかな。

思考力の芽生え

ふさわしい材料を考えてクレープに見立て、より本物らしい見え方を試行錯誤する

自然への関わり・生命尊重

クレープを持って園庭や公園へピクニックに出かけ、花を愛でたり風の気持ちよさを感じたりする

数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚

生活の中にある文字や数字を使ってみると、お店が本物らしくなり楽しくなることを知る

言葉による伝え合い

興味を持った出店について友達と意見交換し、自分の思いが伝わる表現を工夫したりしながら話し合う

豊かな感性と表現

クレープ生地に具材を置くときに、カラフルできれいにみえるようにするなど、自分なりの表現を楽しむ

3. 「架け橋プログラム」の調査研究

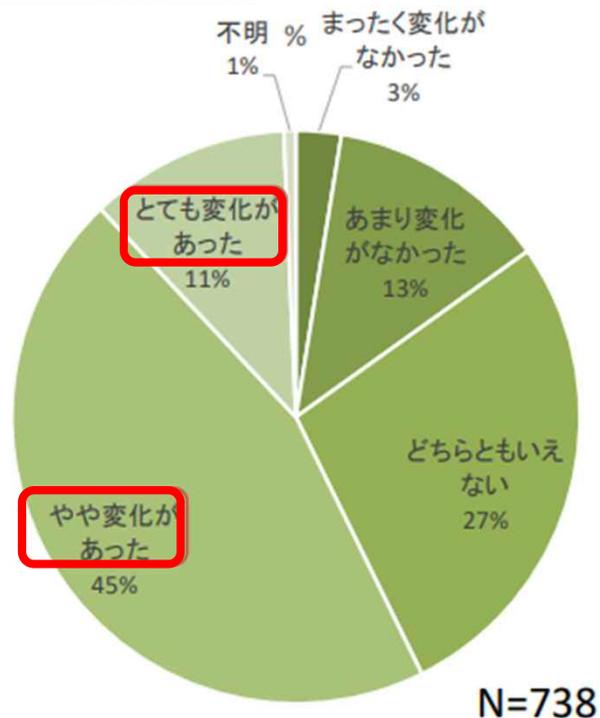
幼保小の架け橋プログラムのモデル地域における 成果に係る調査研究【結果の概要】

管理職

「子どもへの関わりや指導方法に変化はありましたか。」

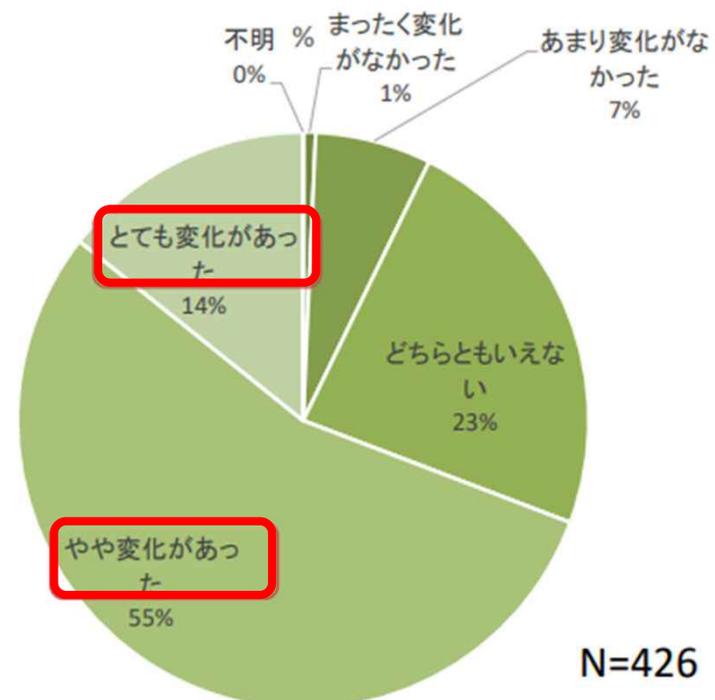
園

令和6年度



小学校

令和6年度

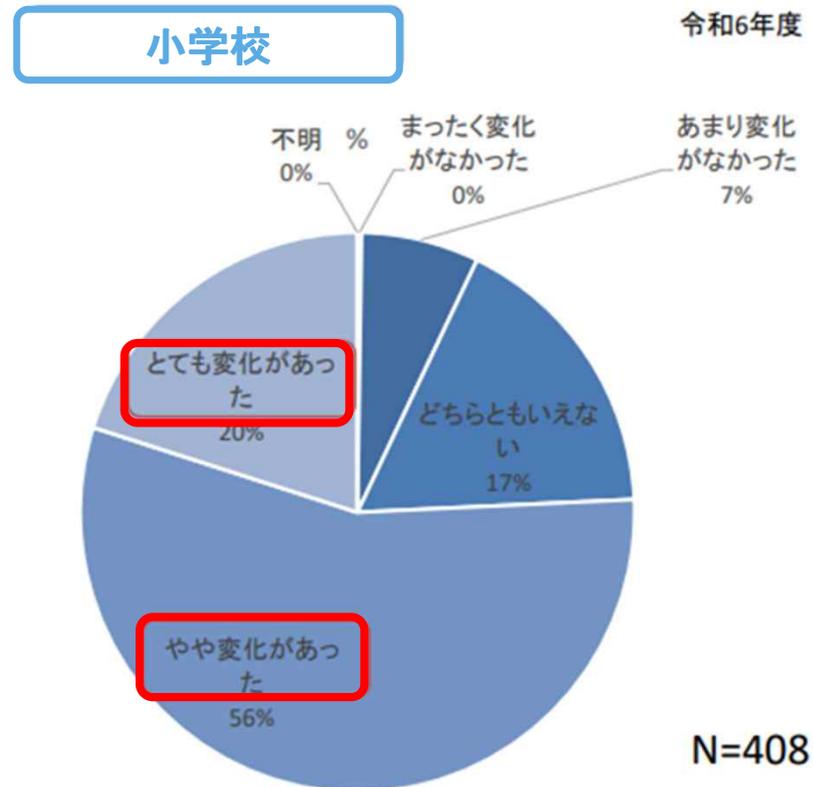
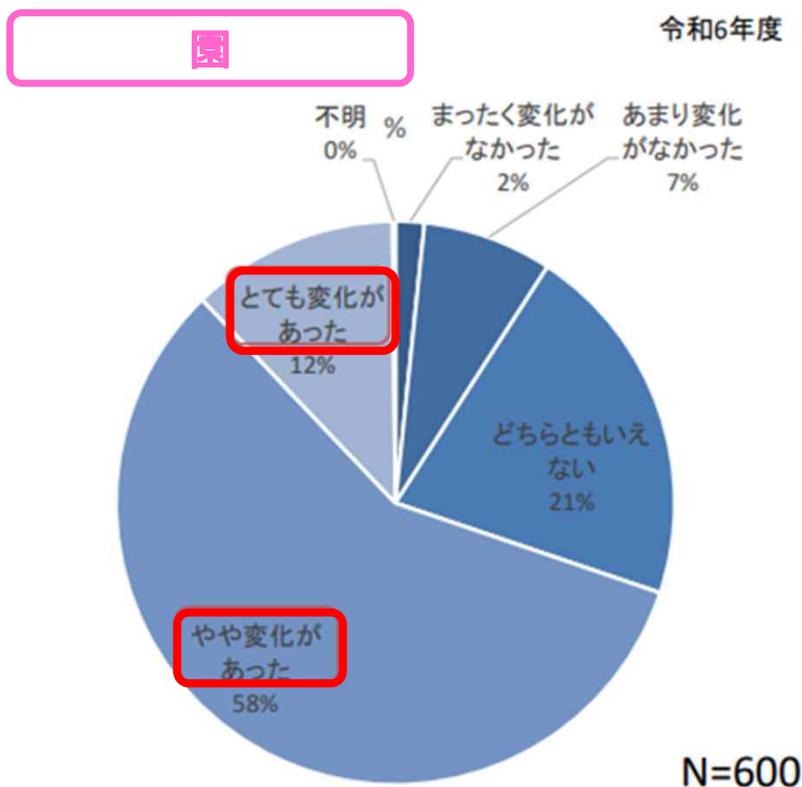


3. 「架け橋プログラム」の調査研究

幼保小の架け橋プログラムのモデル地域における 成果に係る調査研究【結果の概要】

担任

「子どもへの関わりや指導方法に変化はありましたか。」



3. 「架け橋プログラム」の調査研究

園における変化

□ 小学校教員との交流や授業参観を通じた意識の変化

- ・ 小学校の授業や環境を理解し、5歳児の保育に反映
- ・ 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を強く意識

□ 幼児期の体験・経験を重視した保育の強化

- ・ 主体的な遊びを促す環境の構成の一層の工夫
- ・ 5歳児が自分の考えを言語化する機会の増加

□ 小学校を意識した活動

- ・ 小学校生活への期待を高めるため、1年生との交流活動を増加
- ・ 小学校の学習環境を参考にした活動を導入

□ 小学校就学への期待を高める取組

- ・ 年長児が安心して入学できるよう、小学校の生活習慣や学び方を体験する機会を提供
- ・ 小学校見学や、1年生との交流活動の増加

3. 「架け橋プログラム」の調査研究

小学校における変化

□ 幼児期の学びを意識した授業の工夫

- ・園での遊びや経験を活かし、導入活動に体験的要素を取り入れ
- ・子どもが「考える」力を伸ばす指導を意識

□ 遊びを取り入れた学習活動の拡充

- ・生活科や国語科の授業で遊びの要素を取り入れ、学習への興味を喚起
- ・各教科等の学習の中でも幼児期の経験を活かす活動の増加

□ スタートカリキュラム導入で柔軟な時間設定

- ・小学校生活へ円滑な接続を図るため、合科的・関連的な学習や弾力的な時間割の充実
- ・1学期の前半は体験的な活動の時間を多く確保し、子どもの学びのスタートをサポート

□ 子どもの主体性・協同性を重視した学習環境の整備

- ・授業の中で子どもが自分の意見を言える場面を増加
- ・クラス活動での話し合い活動等の協働的に学ぶ機会を重視

3. 「架け橋プログラム」の調査研究

幼児期及び幼保小接続期の教育に関する参考資料



幼児教育と小学校教育がつながるってどういうこと？

幼児教育と小学校教育の接続について、幼児期の遊びを通した学びと小学校の各教科等の学習のつながりを見る化し、幼保小の相互理解を促進するための参考資料です。

第1章「幼児教育と小学校教育」においては、それぞれの教育の特徴等を解説し、第2章「各教科等における学びのつながり」においては、幼児期の遊びを通した学びと各教科等の学習（小学校一年生で学習する全ての各教科等）とのつながり等を解説しています。

参考資料
(冊子)

幼稚園等の
遊びを通した
学び

幼児期の遊びを通した学びと算数科の数のと計算とのつながり

幼稚園等の遊びを通した学び

算数科の数のと計算とのつながり

幼児期の遊びを通した学びと算数科の数のと計算とのつながり

小学校の
授業展開例

おおきいかず

【授業展開例】

おおきいかず

おおきいかず

幼児教育及び小学校教育関係者向け参考資料
https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/youchien/mext_02697.html (文部科学省HP)



書籍情報はこちらから
https://www.toyokan.co.jp/products/5659?_pos=1&_sid=6530f6695&_ss=r (東洋館HP)



遊びは学び 学びは遊び

“やってみたいが**学**びの**芽**”

